

2024.11.15
No. 188

たなぐら 議会だより



2
ページ

定例会9月会議

6
ページ

町政を問う
一般質問

15
ページ

8月第1回会議
議員活動報告



もくじ

表紙写真
「手のひらでもみじ作り」
(近津幼稚園)

令和
5年度

すべての会計 決算を認定

定例会
9月会議

定例会9月会議は、9月24日から27日の4日間の会議日程で開かれました。会議では、令和5年度の決算認定や補正予算、条例の一部改正、人事案件の議案などを慎重に審議し、原案のとおり可決されました。



令和5年度決算の財政状況（一般会計）

前年度に比べ、歳入は町税が増額となったほか、ふるさと納税が1億1,879万3千円増の4億6,691万9千円、クラウドファンディング寄附金が1,237万5千円となりましたが、地方交付税、国庫支出金等が減額、前年度比率では6.2%の増となりました。歳出では、ふるさと納税推進事業や物価高騰対応重点支援給付金事業、高校生等生活応援給付金事業などで増額となり、新型コロナウイルスワクチン接種事業や林業専用道整備事業、補助農業用施設災害復旧事業などが減少しましたが、前年度比率で5.5%増となりました。

会計別決算額

（単位：千円／△はマイナス）

会計名		歳入	歳出	差額
一般会計		81億4,961万3千円	78億1,965万8千円	3億2,995万5千円
特別会計	国民健康保険	12億3,486万9千円	12億1,662万9千円	1,824万円
	後期高齢者医療	1億5,853万6千円	1億5,817万4千円	36万2千円
	介護保険	15億7,653万9千円	14億9,020万2千円	8,633万7千円
	簡易水道事業	4,922万5千円	4,059万7千円	862万8千円
	公共下水道事業	3億5,289万1千円	3億2,525万8千円	2,763万3千円
	農業集落排水事業	1億5,047万4千円	9,045万6千円	6,001万8千円
	霊園整備事業	187万1千円	186万1千円	1万円
上水道事業会計 （消費税抜き）	収益的収支	3億3,870万4千円	3億1,894万9千円	1,975万5千円
	資本的収支	1億6,284万2千円	2億8,183万8千円	△1億1,899万6千円

※上水道会計 資本的収支の不足額については、過年度分損益勘定留保資金、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、建設改良積立金で補てんしました。

決算認定採決

令和5年度棚倉町一般会計決算認定の原案をめぐり討論が行われ、採決の結果、賛成多数で可決しました。

反対討論

松本トク子 議員

一般会計決算では、歳入約81億5千万円、歳出約78億2千万円、差引は約3億3千万円である。

民間の人口戦略会議の推計によれば、2050年に棚倉町は8千人台になるといわれている。今、望まれているのは、誰もが思う人口減少防止対策である。そのためには、子どもを産み育てる若い世代に対する施策が必要である。

令和5年度決算を見ると、学校給食費約5,952万5千円だが、無償化されていない。すこやか赤ちゃん応援事業は、月々2,500円の2年間である。また、働く親の子育て支援の一つの保育園の無償化もされていない。本腰を入れ、人口対策に取り込むのなら、この3点を真っ先に行うべきと思う。

また、今まで長い間働いてきた高齢者にとっても住みやすい町にしていかなければならない。期せずして、車いす生活になってしまったら、福祉の谷間に置かれていくことに気づくことになる。介護タクシーを日常的に利用できる町にしていかなければならない。在宅介護、訪問看護の充実が望まれる。

以上、申し上げた状況の中で、ルネサンス棚倉に毎年1億円の支出をするのは、やはり厳しいものがあると思う。

以上で、令和5年度の決算に対する反対討論とする。

賛成討論

大竹 盛栄 議員

令和5年度決算の歳出総額は、約78億2千万円であり、前年度よりも約4億1千万円増となった。

これは、文化センター大規模改修事業や、棚倉運動広場大規模改修事業のほか、物価高騰支援策として実施した、物価高騰対応重点支援給付金事業によるものである。

また新たに子育て支援の一環として、棚倉町高校生等生活応援給付金事業を実施したほか、その他の事務事業についても、ふるさと納税、地域交通対策、健康増進、観光施設整備、道路新設改良、防災対策、幼・小・中の通園通学支援、キャリア教育、預かり保育、生涯学習など有利な財源を確保しながら継続的に執行されてきた。

私は、原油高や物価高による先行きが不透明な情勢の中、厳しい財政状況においても住民福祉向上のため、各種事業を積極的に展開してきた決算の内容は評価ができるものとして、本議案に対する賛成討論とする。

決算特別委員会

令和5年度の決算認定は、決算特別委員会に付託され慎重に審議されました。その結果、一般会計は賛成多数で、その他の特別会計は全会一致で認定すべきものと決定されました。



補正予算

◆ 棚倉町一般会計予算

2億2,428万円増額

【一般会計の主な事業】

◎ ふるさと納税推進事業費

5,420万円

ふるさと納税寄付金の増額に伴う返礼品や業務委託にかかる費用。

◎ 物価高騰対応重点支援給付事業費

1,883万円

調整給付金、住民税非課税世帯・均等割世帯支援給付金、子ども加算給付による増額。

◎ 予防接事業費

2,732万円

65歳以上及び基礎疾患がある方への新型コロナウィルスワクチン予防接種の一部を助成する費用。

◆ 棚倉町国民健康保険特別会計

284万円増額

国保税の過年度分資格喪失の届け出による還付金の増額。

◆ 棚倉町介護保険特別会計

8,633万円増額

令和5年度の精算に伴う基金積立金及び返還金等の増額。

◆ 棚倉町簡易水道事業会計

29万円増額

高野西部簡易水道配水池管理用道路浸食による敷鉄板の委託料、戸中簡易給水施設塩素薬液タンクの修繕費用の増額。

◆ 棚倉町下水道事業会計

302万円増額

浄化センターのアルミフェンス等の修繕、農業集落排水施設の水中攪拌ポンプ等の修繕に要する費用の増額。

条例の一部改正等

◆ 棚倉町国民健康保険条例の一部を改正する条例

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の施行により、現行の被保険者証が発行されなくなることに伴い、被保険者証の返還に応じない者に対する罰則を削るため改正。

◆ 棚倉町地方活力向上地域における固定資産税の課税免除及び不均一課税に関する条例の一部を改正する条例

福島県特別措置条例の一部を改正する条例が公布されたことに伴い、固定資産税の課税免除及び不均一課税の対象期間を延長する改正。

◆ 棚倉町奨学資金貸付基金の設置、管理及び処分に関する条例の一部を改正する条例

奨学資金制度の拡充を図り利用促進を促すため、奨学資金の種類に入学準備金を追加する改正。

◆ 白河地方広域市町村圏整備組合規約の変更

現在、組合で徴収可能な税は地方税のみだが、国税である森林環境税も含めた処置ができるよう同組合規約を改正するもの。

◆ 福島県後期高齢者医療広域連合規約の変更

マイナンバーカードと健康保険証の一体化により、後期高齢者医療の被保険者証が12月2日に廃止されることから、同広域連合規約において関連する文言の整理をするもの。

契約の締結

◆ 街なみ環境整備事業 亀ヶ城南通線舗装改修工事請負契約締結

地域住民等の周遊性向上や歴史的建造物と調和した景観形成を目的に城跡周辺道路及び歩道の美装化と、老朽化した路面の機能や安全性を確保するための工事。

○ 契約金額

50,237,000円

○ 契約の相手方

棚倉町大字棚倉字南町20
藤田建設株式会社
代表取締役社長 内藤 勇雄

◆ 棚倉町保健福祉センター冷暖房設備更新工事請負契約締結

空調機の老朽化に伴う冷暖房設備の更新で、ガスエンジン動力式空調機を電気式に変更する工事。

○ 契約金額

77,770,000円

○ 契約の相手方

棚倉町大字金沢内字山ノ神78-3
株式会社コバヤシ
代表取締役 小林 秀樹

人事案件

全会一致で同意しました。

棚倉町教育委員会委員の任命



石川 清美さん
(大梅)

棚倉町教育委員会委員の任命



藤田 容子さん
(古町)

棚倉町固定資産評価審査委員会委員の選任



高橋 典昭さん
(下町)

定期監査が行われました

(10月28日～11月6日) までの7日間



各課の担当職員、外部団体の職員から聞き取りをしながら、書類等の確認を行い、適正に執行されているか確認をしました。

実施した外部団体

ルネサンス棚倉、棚倉町土地改良区、棚倉町社会福祉協議会、棚倉保育園、棚倉町商工会、棚倉町活性化協会、棚倉町観光協会、倉美館運営協会

町政を問う

定例会9月会議では8人の議員が登壇し質問を行いました。

1人の制限時間は60分、一問一答方式で行われます。行政全般について町民の身近な課題や町政発展に係る質問を活発に議論しています。

1 高橋みゆき 議員 …… 7ページ

1. ルネサンス棚倉の現状と今後を問う
2. 棚倉高校跡地の利活用について

2 小沼勝弘 議員 …… 8ページ

1. 子育て支援の拡充と今後の方向性は
2. ゼロカーボンシティの表明は

3 薄井喜一 議員 …… 9ページ

1. 消防団の再編成は
2. 水郡線を活用した観光事業は

4 松本トク子 議員 …… 10ページ

1. ルネサンス棚倉の現状と後は
2. 学びの多様な学校設置を踏まえた不登校対策は

5 大竹盛栄 議員 …… 11ページ

1. 医療的ケア児に対する支援は十分か
2. 学びの多様な学校とは
3. 観光協会・物産振興会への支援体制は

6 割栢義夫 議員 …… 12ページ

1. 災害時の飲料水・生活水の確保は
2. 高齢者福祉の充実について

7 菊池忠二 議員 …… 13ページ

1. 宮川新町長の公約、躍動・棚倉とは
2. 町道等の除草作業について

8 藤田智之 議員 …… 14ページ

1. 新町長として課題解決の取り組みは
2. 役場業務上のハラスメントは
3. ふるさと納税を給食費無償化に使っては
4. 上下水道の今後の維持は

一般質問席

問 ルネサンス棚倉の現状と今後を問う

答 結果を出していきたいと考えている

問 現在の予約・利用状況は。

町長 町として把握していない。

問 集客に結びつくイベント企画や町民無料利用券配布の考えは。

町長 イベント企画等は、各種イベントや隣接する倉美館で開催される催しなどと連携していく。無料利用券配布の予定はない。

問 1割以上減額した町民利用料金設定があるとはどこで周知されているのか。

産業振興課長 チラシ等には明記されている。もしPR不足ということであれば調整会議等で申し入れていきたいと考えている。

問 今後の運営方法にあたり、検討委員会設置の考えは。

町長 現在のところ、運営に問題は生じていないので検討委員会を設置する考えはない。

問 埼玉県の越生町は第三セクター方式の温浴施設を検討委員会を設置し、協議のうえ施設を譲渡したことで運用再生に成功しているが、越生町に限らず、こ

た事例をどう捉えるか。

産業振興課長 情報としては調べている。どういった手法がいいのかは今後検討していきたいと考えている。

問 現在の出資企業とその出資割合は。

産業振興課長 棚倉町60%、一般財団法人活性化協会10%、(株)ルネサンス14%、東邦銀行、白河信用金庫、棚倉開発、JTBが各4%。

問 町から出向された職員が内部にいると意識改革にもつなぐと思うが今後その考えは。

産業振興課長 現時点で予定はない。

問 指定管理料支払いの当分の間とはいつまで。

産業振興課長 一つの区切りは令和7年度といつかで捉えている。

問 再三にわたりルネサンス棚倉の在り方、運営方法について多くの議員が議論してきた。令和5

年度には経営黒字の目標が結果として達成されていないことをどう考えているのか。

産業振興課長 目標となる数字に向かえるよう協議なり検討を今後も続けていくと考えている。

問 やはり運営方法を変えたくないという印象だが町長自身の考えは。

町長 このままの赤字状態が続いているのは当然いいと思う訳がない。そう遠くない時期には結果を出していきたいと考えている。



ルネサンス棚倉



たかはし 高橋みゆき

問 棚倉高校跡地の利活用について

答 検討していく

問 補助金交付対象となったことで具体的な考えは。

町長 タウンミーティングで、跡地利活用の考えについては意見をいただいた。

問 地域住民との協働利活用の考えは。

町長 先日のタウンミーティングも手法のひとつだが、今後必要に応じて検討していく。

問 利活用方法等の協議に伴う検討委員会の設置の考えは。

町長 現時点では設置の考えはないが、今後方向性を決定するに当たり必要がある場合には検討していく。

問 子育て支援の拡充と今後の方向性は

答 必要に応じ制度の見直しを検討

問 町独自の取り組みである、すこやか赤ちゃん応援券の支給事業における利用率は。

町長 令和3年度が98%、4年度が96・8%、5年度が96・4%である。

問 すこやか赤ちゃん応援券の増額や支給期間を延長する考えは。

町長 子育て世帯は、特有の家計負担が生じるため、応援券の利用状況、保護者の意見を精査しながら、必要に応じ制度の見直しを検討したい。

問 出産子育て応援給付金の具体的運用は。

町長 国の補助事業で、妊娠届出後に5万円、出産後に5万円の応援給付金を支給している。

問 町独自の出産祝い金制度の検討は。

町長 現時点で制度創設の考えはないが、今後他自治体の実施状況を確認したい。

況や社会経済情勢等を踏まえながら、必要に応じて検討したい。

問 親子で出かけられる公園を整備する考えは。

町長 施設の利用者からは、もう少し規模が大きく、広い公園を望む声があるため、魅力ある公園の整備が必要と認識している。



亀ヶ城公園

問 ゼロカーボンシティの表明は

答 実行計画の策定に合わせ、表明を検討

問 ゼロカーボンシティについて、表明する自治体が年々増加しているが、当町の表明に関する検討は。

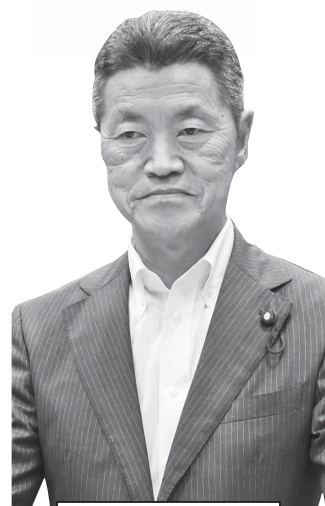
町長 令和3年に地球温暖化対策に関する棚倉町環境基本計画を策定しており、今後、具体的な事業を定めた実行計画の策定と併せて、表明についても検討していく。

問 再生可能エネルギーの導入・拡大に関する当町の取り組み状況は。

町長 住宅用の太陽光発電システム設置補助事業の取り組みや、公共施設・学校に太陽光パネルを設置するなど、再生可能エネルギーの普及促進に努めてきた。



脱炭素社会



小沼勝弘

問 消防団の再編成は

答 本団役員と協議しながら検討

問 令和6年度の新入団員数と平均年齢は。

町長 新入団員数は12名で、平均年齢は34歳。

問 昨年度の出動回数と人数は。

町長 出動回数は3回で、人数は188名。

問 団員確保のため、報酬額増額の考えは。

町長 令和4年4月から増額しているため、現時点で増額の考えはない。

問 班員が、欠員となっていると聞くが再編成の考えは。

町長 令和5年度に消防団自らが組織定数検討委員会を立ち上げ、各分団や各班の現状を把握した上で現行の組織定数としたところであるため現時点で再編成の考えはないが、本団役員と協議しながら再編成について検討していく。



消防団の屯所

問 水郡線を活用した観光事業は

答 駅前周辺整備や観光案内所設置について検討

問 棚倉町には水郡線の駅が3カ所あるが、これらの駅を利用した観光誘客の考えは。

町長 JR東日本水戸支社と連携して駅からハイキング、水郡線サイクルトレインなどの事業に取り組みながら水郡線及び町内の3駅を活用した観光誘客に取り組んでいる。

問 JR東日本の工事で駅を改修する計画があるか。町として記念行事を実施する考えは。

町長 現時点では計画を把握していない。記念事業の実施については、改修計画が発表され、地区から要望があれば協議する。



磐城棚倉駅



薄井喜一

問 水郡線活性化協議会の活動内容は。

産業振興課長 水郡線沿線11市町村で構成されており、年1回の総会と定期的な担当者会議を行っている。県の鉄道協議会とも連携し、様々な要望をしている。

問 ルネサンス棚倉の現状と今後は

答 経営健全化方針に基づき取り組み

問 オープン時、原発事故後、コロナ禍における売上げと客数は。

町長 平成2年度7億7千7百万円・31万6千人。3年度9億9千4百万円・45万1千人。24年度2億2千6百万円・48万6千人。25年度2億2千万円・26万8千人。令和3年度1億2千4百万円・7万2千人。4年度1億8千7百万円・8万7千人である。

問 37年間の売上げと客数の推移をどう感じるか。

産業振興課長 オープンから十数年は時代背景もあり好調。その後の経済状況変化による低迷に再生を図るも、震災、原発事故、コロナ禍と続き、大変厳しい状況が続いている。

問 東電から支払われた原発事故賠償金の総合計は。

町長 約10億3千6百万円と報告されている。

問 支払われた期間は。

産業振興課長 平成24年から令和2年までと伺っている。

問 累積赤字金額の見通しは。

町長 令和5年度決算における累積赤字額は約3億3千3百万円である。今後、第三セクター等経営健全化方針に基づく取り組みにより改善を図っていく。

問 令和6年度のルネサンス棚倉の事業計画は。

町長 季節ごとのイベントやキヤンペーンを計画している。

問 令和6年度の事業計画は5年度と比べて、売上げ等で何倍を見ているか。

産業振興課長 約1・5倍から1・6倍程度を見越していると推測する。

問 町民を含めた検討委員会を設置する時期にきているのでは。

産業振興課長 今後の在り方には議論が必要。庁内でも良い方向に進むようにしたい。



ルネサンス棚倉

問 学びの多様化学校設置を踏まえた不登校対策は

答 児童・生徒や保護者と接触し支援を行う

問 令和6年4月時点での不登校児童・生徒数は。



まつもと 松本トク子

教育長 小・中学校合わせて12名。男子8名、女子4名である。

問 スクールカウンセラーを含む教員の配置は。

教育長 県からスクールカウンセラー1名を棚倉小・中学校に、町からスクールソーシャルワーカーを子どもサポート教室に1名配置している。

問 不登校児童・生徒に配慮した「学びの多様化学校」とは。

教育長 不登校児童・生徒の実態に配慮し特別に編成した教育を行うことが出来る学校である。

問 3年間学び卒業する生徒に対する高校進学等の道筋は。

教育長 生徒や保護者と進路相談の機会を持ち、生徒が希望する進路を選択することが出来るよう支援している。



おお 大竹盛栄

問 医療的ケア児に対する支援は十分か

答 十分とはいいいない状況にある

問 棚倉町での医療的ケア児の人数は。

町長 令和6年8月末現在で2名。

問 医療的ケア児に対する支援は十分に果たされているのか。

町長 医療的ケアの種類及び生活の実態に応じて、各種給付や、サービスを提供しているが、保護者のニーズに沿った支援が十分とはいえない状況。

問 医療的ケア児がそうでない児童と共に教育を受けられるよう最大限配慮すべきとあるが、入学などを断ったのか。

子ども教育課長 就学先は家族と相談し決めている。

問 ケアするための看護師の確保の考えは。

子ども教育課長 町単独では厳しいので、広域的取り組みが必要と考える。

問 今後、支援体制をどう構築していくのか。

町長 郡全体の事と捉え、東白川地域自立支援協議会や療育支援部会で、広域的な支援体制の構築を図って行き、早く結果を出したい。

問 学びの多様化学校とは

答 不登校児童生徒の実態に配慮し特別に編成した教育を行う学校



医療的ケア児の通う施設

問 申請の進捗状況は。

教育長 申請に必要な計画書案や教育課程表案について、文科省に指導助言を頂いている状況。



宮城県白石市の多様化学校

問 多様性を重視する棚倉中学校の分教室だが、制服は。

教育長 自主的、主体的に決定するのが望ましいと考え配慮する。

問 子どもサポート教室や、通級指導教室との関係は。

教育長 児童・生徒の状況に応じた居場所としての役割と考える。

問 認定はいつごろか。

子ども教育課長 7年2月ごろ。

問 学校設置条例との整合性は。

教育長 棚倉中学校の「分教室」であるため既存の条例に含まれる。

問 観光協会・物産振興会への支援体制は

答 金銭・人材の両面から支援している

問 役場職員が事務の兼務をしているが服務規定に沿っているのか。

町長 他団体の事務への従事願いの手続きにのっとりて業務を行っている。

問 新たな組織体制を提案、指導すべきと思うが。

町長 観光振興を図る上で、新たな組織体制が必要と判断する場合には、適切な指導及び支援を行う。

問 県同様に、観光物産協会のよつなものを立ち上げては。

町長 ひとつの方法と思うが、現在の組織の中で進めていく。

問 災害時の飲料水・生活用水の確保は

答 発災後3日間一人一日3リットル

問 災害時の飲料水・生活用水などの確保の考えは。

町長 発災後3日間は被災者一人一日3リットルに相当する量を目標として、応急飲料水を備蓄する。

問 幼稚園、小・中学校の避難訓練の実施状況は。

教育長 火災や地震、不審者等を想定し、年3回程度の訓練を実施している。

問 実践に沿った避難訓練はできないか。

子ども教育課長 様々な場面を想定した避難訓練を行うよう学校現場に働きかけていく。

問 災害時における乳幼児の支援体制は。

町長 福祉避難所を指定し、専門的な人材を配備することにより、人的支援を受けられる体制を構築している。また、民間企業とミルクやおむつ等の供給に関する協定

を締結しており、生活物資等の調達体制の整備に努めている。

問 指定避難所の環境整備は。

町長 要配慮者の尊厳を尊重できる環境整備に努めている。トイレ不足時は、令和5年度導入の災害用トイレトレーラーを配備する。

問 飲み水や生活用水として使う非常時のろ過機装置等の準備は。住民課長 現在のところ整備はしていない。



非常時持ち出し用品

問 高齢者福祉の充実について

答 人材育成や支援事業を実施

問 高齢者福祉充実のため、介護人材の確保が急務と思うが取り組みは。

町長 キャリア教育の中で職場体験、社会福祉協議会主催の高校生を対象としたサマーショートボランティアスクールにおいて福祉の仕事に触れる機会を設けている。

また、有償ボランティア養成講座を開催し、「たなぐらお助け隊」として、支援を必要とする高齢者への訪問事業に取り組むなど人材の育成、確保に努めている。

問 在宅福祉、生活支援、地域密着型サービスの整備の現状と課題は。

町長 高齢者が安心して在宅生活が送れるよう、緊急通報装置の設置や配食サービス等、各種支援

事業を行っている。

地域密着型サービスの整備状況は、在宅サービスとして通所介護の3施設と認知症対応型通所介護の2施設、施設サービスとして認知症対応型共同生活介護の1施設が整備されている。課題は、人材確保が困難、介護職員の高齢化などの声が聞かれる。

問 今後の地域包括支援センターの役割と、重層的支援体制整備事業の取り組みは。

町長 地域包括ケアの中核的機関としての役割を担っている。

重層的支援体制整備事業は、一つの支援機関だけでは解決困難な複雑、複合的な課題を持つ方への支援体制をつくる事業。現在、関係課や関係機関が連携して問題解決に取り組んでいる。体制構築は行っていない。



割 栢 義 夫

問 宮川新町長の公約、躍動・棚倉とは

答 町民一人一人に躍動感を提案

検討して進めていく。

問 公約の優先順位は。

町長 公約の一番の骨格が人口減少に歯止めをかける事。様々な政策を実現させ結果につなげたい。

問 JRバス関東の敷地を取得して開発する考えは。

町長 今後、JRと駅舎を含めた整備計画など打合せを検討したい。

問 ルネサンス棚倉についての考えは。

町長 黒字を目指すため、今後、現状を詳細に分析し、新たな展開を検討していく。

問 ルネサンス棚倉の社長就任は別な方では。

町長 今の体制がベストだと思わないので、そういったことも含めて今後検討していきたい。

問 棚倉駅前の再開発の考えは。

町長 観光行政は幅広い産業に関係するすそ野の広い分野であるので、しっかりと推進していくことで町の産業と経済振興、いずれもつながっていくものと考えている。

問 観光行政だけでなく生業も大事で、これまで企業誘致の予算を見て町は熱心に推進しているとは思えないが町長の考えは。

町長 予算の範囲内でトップセールスをしっかりと推進していく、地元で頑張っている方など総合的に考えて検討し、早速、来月には首都圏方面へトップセールスに出かける予定。

問 町長が掲げる躍動・棚倉とは。

町長 町民一人一人が自分から進んで、この町を何とかしたいというような思いを持たせることが大事だと考えている。そこに躍動感が生まれてくる。

問 町長の熱意を第7次振興計画にも反映されるのか。

町長 振興計画は策定中であるが、私の強い思いを振興計画に乗せたいと考えている。

問 町道等の除草作業について

答 業者委託や職員直営により実施

問 町道などの草刈の回数と方法は。

町長 年1回、9業者に委託。

問 除草作業を行政区や各コミュニティ単位で登録し、委託することはできないか。

町長 地域住民団体等によるボランティア活動を支援する事業が展開できないか、検討する必要があるものと考えている。



歩道を覆う雑草



菊 池 忠 二

問 新町長として課題解決の取り組みは

答 より効果的な施策を検討

問 新町長として町にどのような課題があると考えどのように取り組むのか。

町長 少子高齢化、住民の安全・安心の確保、地域コミュニティの弱体化、デジタル化による社会変革、SDGsの達成に向けた取り組みの課題に加え、磐城棚倉駅前周辺の活性化、棚倉高校跡地の利活用、人口流出等も重要課題と認識している。

これまでの事業の効果を分析、見直しをし、より効果的な施策を検討したい。

問 先進事例の研究、視察の推進は。

町長 大変有効な方法である。

問 役場業務上のハラスメントは

答 これまでに事案は無かった

問 様々なハラスメントの被害や事件等が報道されているが当町の対応は十分か。調査の考えは。名札の簡素化などは。

町長 これまでに役場業務上のハラスメント事案は無かったため、現時点で調査の必要性は感じていない。名札の簡素化は対策の一環として検討したい。令和4年3月にハラスメント防止対策の基本方針を策定、研修の実施や相談窓口を設置、対策を講じている。

問 いじめと一緒に、報告事例がない事が問題で調査が必要では。

総務課長 相談窓口でいつでも相談できるので、考えていない。

問 条例制定の考えは。

総務課長 近隣の自治体の状況

を参考に進めたい。

問 ふるさと納税を給食費無償化に使うのは

答 優先順位により考えていない

問 ふるさと納税等による寄附金は金額も増えて、より有効な活用が期待されているが、取り組みは。給食費無償化には使えないのか。

町長 令和6年度におけるふるさと納税の寄附金は4億円を見込んでいる。返礼品は衛生用品がほとんどを占めている。返礼品等の経費は半分弱で、8月末現在で1億1千3百万円が実質収入となる見込み。町民のふるさと納税利用による減収分は令和6年度分で約千百万円程度。申込書の活用希望として、高齢者福祉事業、子育て支援事業、学校教育支援事業、地域振興事業等があり、意向により活用。優先順位により予算化して

おり、給食費無償化の財源には考えていない。

問 寄付金の使い道は。

総務課長 主なものでタクシー利用券、高校生等生活応援給付金や棚倉運動広場大規模改修費用などに充当。



ふるさと納税カタログ

問 上下水道の今後の維持は

答 事業経営戦略プランで見直す

8月第1回会議

8月第1回会議は、8月7日に開かれました。

会議では、補正予算の議案などを慎重に審議し、原案のとおり全会一致で可決しました。

棚倉町一般会計補正

7,689万円増額

主な内容

◎文化センター大規模改修事業

5,225万円

棚倉町文化センター大規模改修工事において、新たに確認された外壁クラック補修に要する費用。

契約締結

◇小型動力ポンプ付積載車購入契約締結

第4分団第5班及び第6班に配備している車両をそれぞれ更新するため、2台の購入契約締結をする。

○契約金額

1,848万円

○契約の相手方

白河市大鳥居橋前83-14

株式会社磐水社白河営業所

所長 鴨川 勇一

◇棚倉町文化センター長寿命化改修工事請負変更契約締結

○変更金額

5,225万円

○契約の相手方

白河市新白河一丁目73

三金興業株式会社

代表取締役 金子 芳尚

議員活動報告

町村議会議員研修会

10月25日、福島県町村議会連合会主催で、ビッグパレットふくしまを会場に開催されました。

研修会は、明治大学政治経済学部教授 牛山久仁彦氏による「議会改革・議会の活性化について」並びに、ジャーナリスト・ニューズキャスター 星浩氏による「今後の政局・政治展望」と題して講演がありました。

陳情

10月28日、棚倉町立学校PTA連絡協議会会長から「令和7年度教育予算確保並びに施設等の充実に関する陳情書」の提出がありました。町内の各幼稚園、各小学校、中学校のPTA会長から陳情の内容について説明があり、町長、教育長、議長が出席しました。



ふじ た とも ゆき
藤田 智之

人を・心を・時をつなぐたなぐらまちに

住む皆様にご意見、ご感想を伺いました。

第35回

議会モニター

言わせて一言

先日、第3次八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョンの会合に参加してきました。

これは、一つ一つの自治体が枠を超えて連携し、圏域全体で経済発展や定住環境を整備し、人口流出を防ぐとともに、圏域への新たな流れを創出することを目的に構成市町が有している豊かな地域資源を最大限に活用して連携、協力し、一体的に定住促進と地域活性化を図ること、住民が幸せを実感し、住み続けたいと思える魅力ある圏域を形成するための取り組みであり、2市6町が締結に基づき、圏域が目指す将来像及びその実現のために必要な具体的取組等を明らかにするものです。

宮下にお住まいの
高田 昇さん



現在、棚倉町人口減少と急速な少子高齢化による地域コミュニティの衰退等により、地域の維持が難しくなってきております。議員の皆様頑張つて頂きたいと思えます。

昨年度行政区長を経験した中で感じた当地区のいくつかの問題の中から喫緊の課題を申し述べます。

当地区の集会施設の生活改善センターにエアコンを設置されたいことです。年間を通して利用延べ人員が500名前後を数える地区の大事な施設ですが、エアコンがないため、夏の暑さが厳しい時期の利用は大変です。

老人クラブの利用も頻繁で、熱中症のリスクも懸念される状況です。

安全安心の住みよい地域づくりの観点から真に地域の拠点である生活改善センターが快適に利用し得る施設となるよう願っております。

また、他地区の実情も踏まえ、地球温暖化による多様な環境変化に柔軟な対応が肝要であり、町議員各位の積極的な提言を期待するものです。

岡田にお住まいの
蛭田 昭一さん



あなたも議会を傍聴してみませんか

傍聴の手続きは役場庁舎3階の傍聴席入口で住所と名前を書くだけで、どなたでも傍聴できます。

定例会12月会議日程のお知らせ(予定)

正式日程は、12月上旬開催予定の議会運営委員会で協議されます。

12月11日(火) 本会議

12日(水)・13日(木) 一般質問



編集後記

朝夕の気温が低下し、日夜の寒暖差が大きくなりましたが、皆様も体調管理には十分お気を付け下さい。

本町では宮川政夫新町長が誕生し、9月議会定例会が新町長の元で開催されました。

宮川町長は経済及び産業復興さらには教育、福祉環境の充実そして文化振興、観光交流の促進など多くの公約を実現させていく事に全力で町政に取り組むと述べておりました。

議会も町当局と議論を重ね、より良い棚倉町になるよう活動していきたいと思えます。

町民の皆様にも今後の町政運営を見守って頂きたいと思えます。

和知 裕喜

広報編集常任委員会

委員長	佐川 裕一
副委員長	和知 裕喜
委員	沼野 将美
委員	高橋 みゆき
委員	割栢 義夫